

今年の夏はとても暑かった。テレビのニュースは、暑さが厳しくなること、熱中症に気を付ける呼びかけが毎日放送されていた。

僕の通っている学校でも暑さ対策が色々行われたが、なんと言っても一番参ったのが部活動停止だった。体育館の温度が異常な暑さになり、中止せざる得なかったのだ。それも一度だけではない。何日も続いた。部活動をできないストレスと異常な暑さに僕のイライラは止まることがなかった。学校の花壇を見ると、暑さで花もぐったりしている。今年の夏は雨も降らなかったため、カラカラ状態だった。

しかし、夏の後半、秋田県は豪雨により、県内に甚大な被害が生じる事態となった。

被災地の状況をネットで見ると、水害で道路が壊れたり、家屋が水浸しになったり、停電や断水になったり、生活基盤の被害がひどかった。また、収穫を目前にした農作物の被害も大きく、被害に遭った人はどんなに気落ちしただろう。本当に気の毒に思う。テレビのニュースでボランティアの人が片付けをしている映像が流れたが、僕は被災者のこの後の生活はどうなるのか心配になった。寄付金を募るにしても時間がかかりすぎる。また、必要な金額が集まる保証は何一つない。同じ秋田県民として何か出来ないだろうか―僕は「災害寄付」とパソコンに打ち込んでみた。すると、税金が災害に対して力を発揮していることが分かった。それは「ふるさと納税」だ。この税金は被災自治体に直接届けられ、復興支援活動のために役立てられるそう。僕はこの画面をしばらく見つめた。

今まで僕は税金について「取られるもの」というネガティブなイメージをもっていた。しかし、よくよく考えれば、税金は僕たちの生活をしっかりと支えてくれている。しかも、自分が支払っている以上の分を与えられている。道路や橋、消防や警察、医療や福祉、そして今僕が学校に通うことができるのも全て税金のおかげだ。みんなが力を合わせて自分達の生活を支えている。実際、僕より小さな子どもさえお菓子を買う際、「消費税」という形で小さな手からお金を出し、納税者として貢献している。だからこそ税金はみんなが納得できる形で使われなければいけない、と言える。また、税金がきちんと使われているのか関心をもつべきだと僕は思う。さらに必要に応じて意見をSNSなどに発信することも税金をより有効に活用する土台作りになると思う。今回の寄付型の納税は、そうしたアイディアから生まれたのかもしれない。

一人一人の生活に密着している税金。どのような社会を築きたいのか、そしてどのような支え合いが必要なのかをしっかりと捉えていくことが納税者としての責任と言えるかもしれない。将来、僕も社会の一員として納税する日がくる。納税者としての責任を自覚し、社会に貢献できるようになりたいと思う。